

「岐阜県における野生いのしし対策について」

令和5年3月

岐阜県農政部

1 全国の感染いのししの現状

- 野生いのししの豚熱感染確認区域は、北は岩手県から西は山口県までの本州ほぼ全域に拡大。
- 令和4年7月に四国初となる感染が徳島県で確認され、9月には高知県、令和5年1月には香川県で初確認されており、四国でも拡大。
- 令和5年2月1日には、鳥取県で初めて確認された。
※令和5年2月3日現在 34都府県で確認。

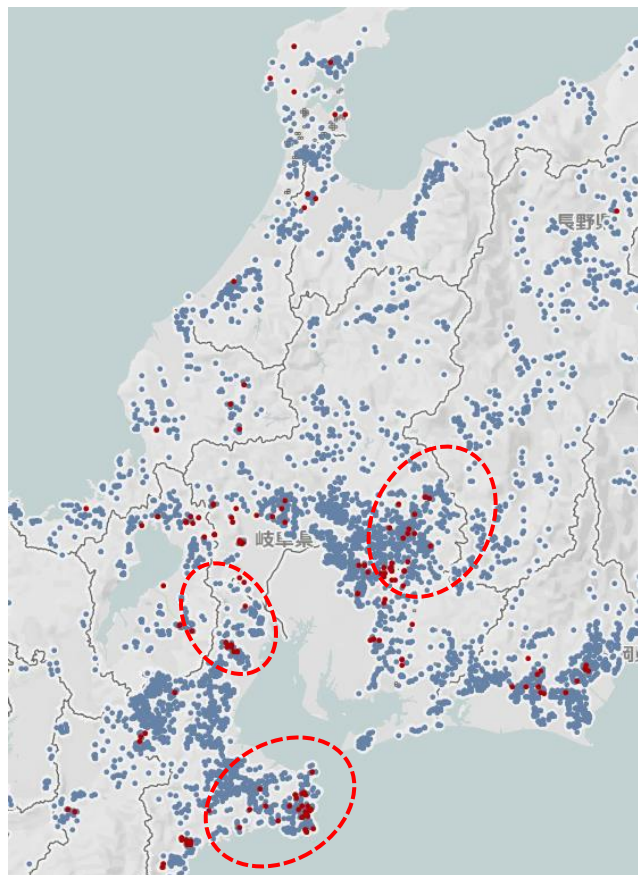
<全国の感染いのしし確認地点>



2 本県周辺地域の感染いのししの状況

- 本県内では、県南部の岐阜・西濃並びに東濃地域において断続的に感染いのししを確認。
- 愛知・三重・滋賀等、近隣県においても継続して感染いのししを確認。
- 特に、愛知県の瀬戸市・豊田市等（本県に隣接）で感染頭数が増加。

< 近隣県における感染いのししの確認状況（直近6カ月：R4.7.21～R5.1.18） >



県名	陽性（頭）	陰性（頭）	検査数（頭）	陽性率
富山県	2	343	345	0.6%
石川県	8	446	454	1.8%
福井県	5	297	302	1.7%
長野県	1	612	613	0.2%
愛知県	13	550	563	2.3%
三重県	77	3,133	3,210	2.4%
滋賀県	14	359	373	3.8%
岐阜県	51	1,761	1,812	2.8%

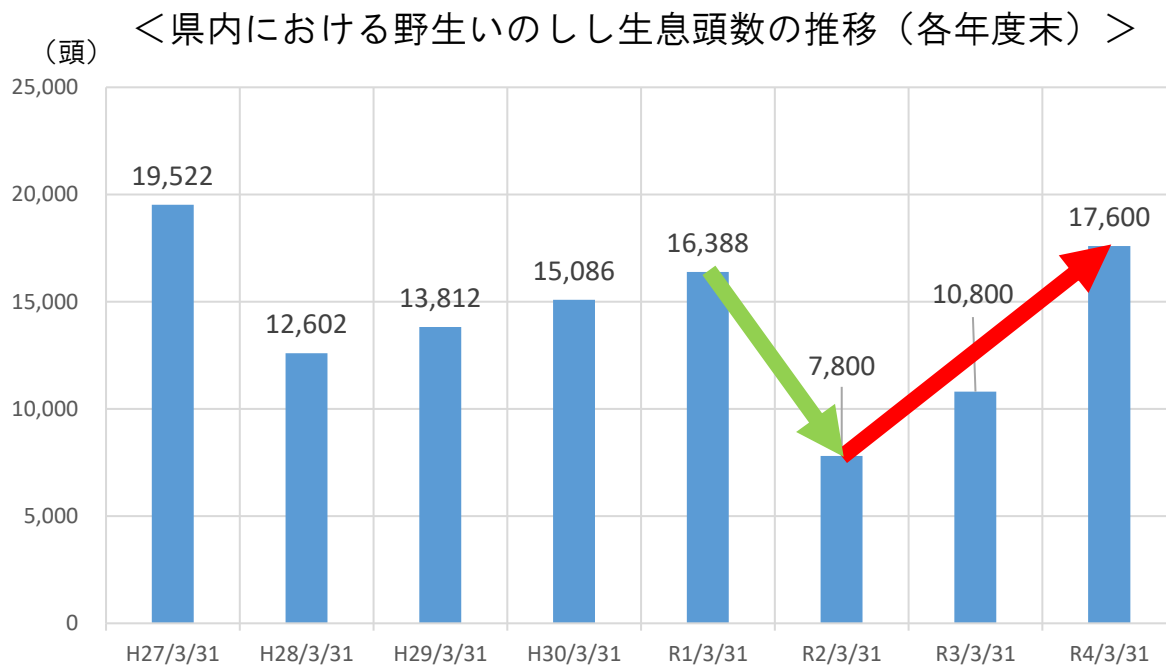
3 県内の野生いのししの現状

① 生息頭数

- 平成30年度末当時、県内に約1.6万頭生息していたとされる野生いのししは、豚熱まん延などの影響により、令和元年度末までに半減。
- 令和4年度調査の結果、令和3年度末には豚熱発生前の水準にまで回復。

[H31.3 末：16,388 頭] → [R2.7 調査：17,132 頭] → [R3.7 調査：18,548 頭] → [R4.7 調査：34,255 頭]
(R2.3 末推計値：約7,800頭) → (R3.3 末推計値：約10,800頭) → (R4.3 末推計値：約17,600頭)

- 特に、南濃及び東濃から中濃地域で生息密度が高い。

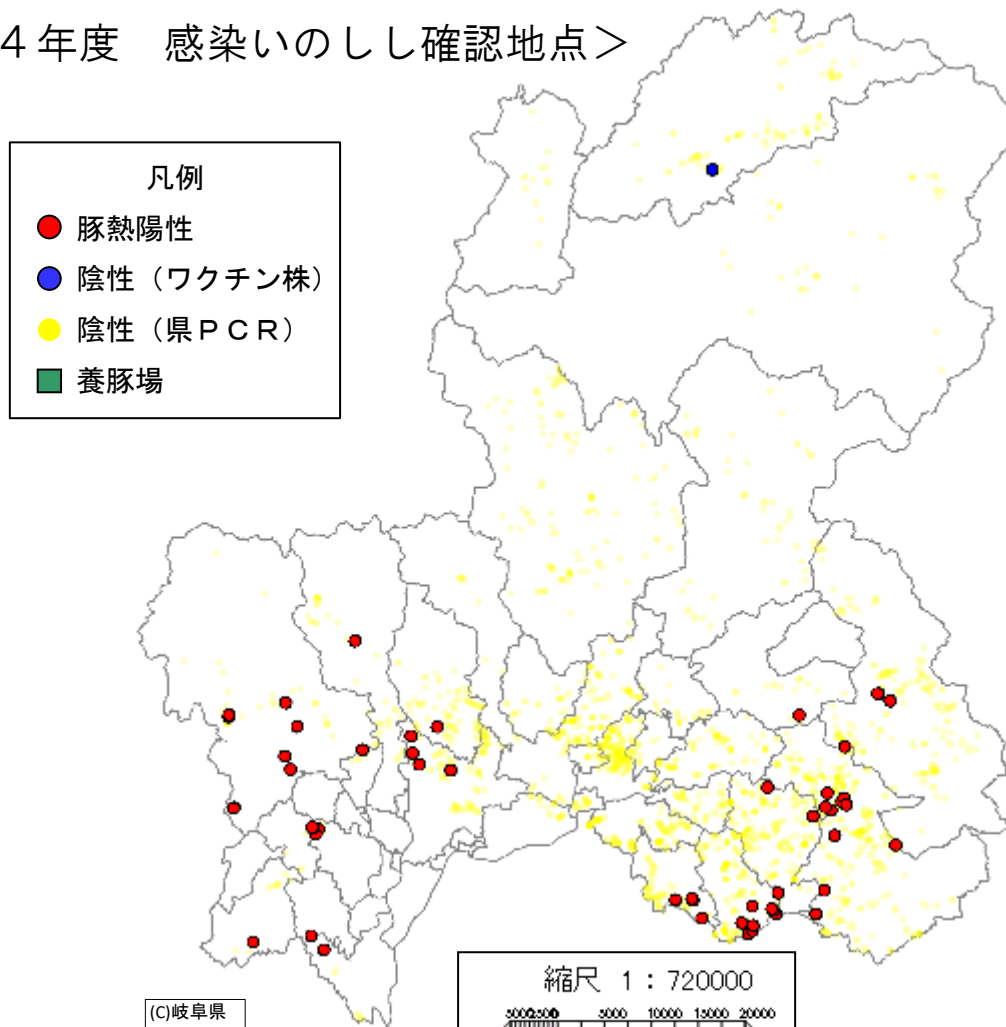


3 県内の野生いのししの現状

② 感染状況

- 令和4年度は、令和5年1月末までに、前年度の2倍を超える63頭の感染を確認。
- 特に、県境に位置する海津市、養老町、多治見市、土岐市、恵那市や、これまで検体が少なく実態が把握できていなかった揖斐地域での感染を確認。

<令和4年度 感染いのしし確認地点>



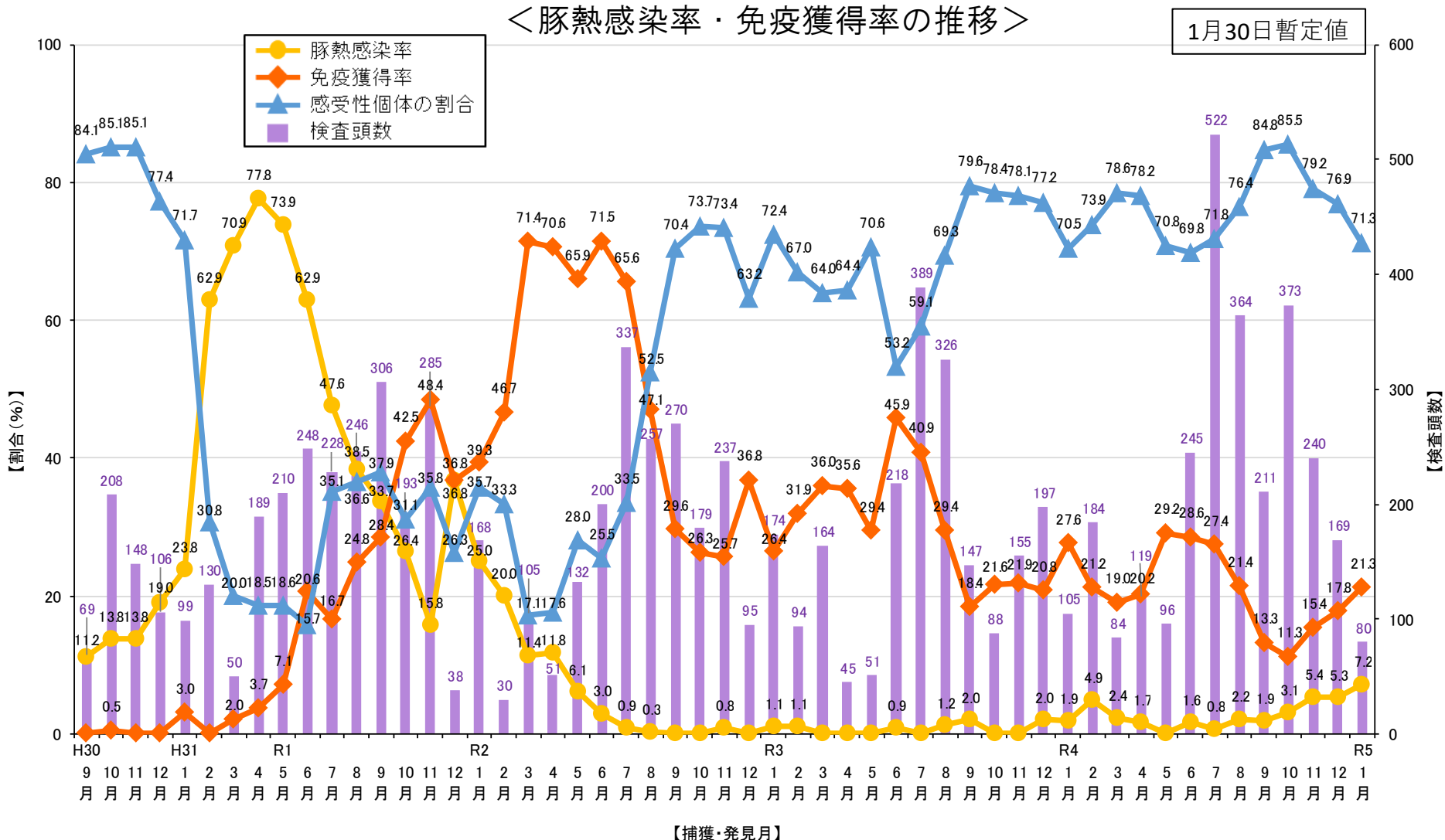
市町村	頭数
岐阜市	4頭
山県市	2頭
本巣市	2頭
大垣市	5頭
海津市	1頭
養老町	1頭
揖斐川町	11頭
大野町	1頭
白川町	1頭
多治見市	4頭
土岐市	12頭
瑞浪市	2頭
恵那市	12頭
中津川市	5頭
合計	63頭

3 県内の野生いのししの現状

③ 免疫獲得率

- 令和3年度の移行抗体消失後、20%から30%程度で推移していたが、令和4年9月以降は15%前後で推移。

＜豚熱感染率・免疫獲得率の推移＞



4 令和5年度の「野生いのしし対策」（野生いのししの捕獲強化）

① 捕獲の実績

- 豚熱発生前は1万頭以上、豚熱発生後は、6千頭から7千頭を捕獲。
- 今年度は有害捕獲の捕獲頭数が増加。

＜平成29年度以降の野生いのししの捕獲頭数＞

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4(12月末時点)
調査捕獲 (その他捕獲を含む)	65	552	1,574	2,502	1,468	1,473
有害捕獲	7,052	8,310	3,586	2,368	2,767	3,658
狩 猟 (R1は広域捕獲)	5,056	2,114	720	1,948	1,970	(終了後集計)
合 計	12,173	10,979	5,880	6,818	6,205	5,131

② 捕獲目標頭数

豚熱感染拡大を抑制できる生息頭数に減少させるため、
捕獲目標頭数 年間 13,000頭 とする。

- 令和4年度生息頭数推計調査結果から、生息頭数（密度）は地域によって偏りがあることが分かっているため、これを反映した地域別の捕獲目標頭数を設定。

【捕獲目標頭数（案）の考え方】

- 令和5年度当初（R5.4.1）の生息頭数を15,000頭と推計。
- 出生頭数や死亡頭数を推計したうえで、令和5年度末（R6.3.31）の生息頭数が10,800頭（※）となる捕獲圧を、「年間13,000頭捕獲するペース」と算出。
※豚熱感染拡大を抑制できていたR3.3末の生息頭数（R3調査からの推計値）

「生息頭数推計のための仮定」

- ・ オス：メス＝1：1
- ・ メスの54%（2歳以上）が平均4頭の子を4～7月に出産（年1回）
- ・ 1歳までに5割が、2歳までに8割が自然死（捕獲による死亡と一部重複）

4 令和5年度の「野生いのしし対策」（野生いのししの捕獲強化）

③ 捕獲の対策

- 県が実施する「調査捕獲」を引き続き実施。
- 市町村が実施する「有害捕獲」への支援を引き続き実施。
- 夏期は「有害捕獲」、狩猟期は「狩猟」を中心として捕獲を進め、捕獲頭数が少ない春期（4～5月）及び冬期（2月～3月）は調査捕獲にて補完。
- 豚熱陽性個体が確認された地域では、調査捕獲期間の延長などにより、集中捕獲を実施。
- 捕獲者の労務負担を軽減するため、引き続き捕獲通知システムの導入に取り組む。

④ 検体の確保

- 県下全域でサーベイランスを継続。
- 県が実施する調査捕獲に加え、市町村や県猟友会と連携し、有害捕獲や狩猟からの血液検体を確保。

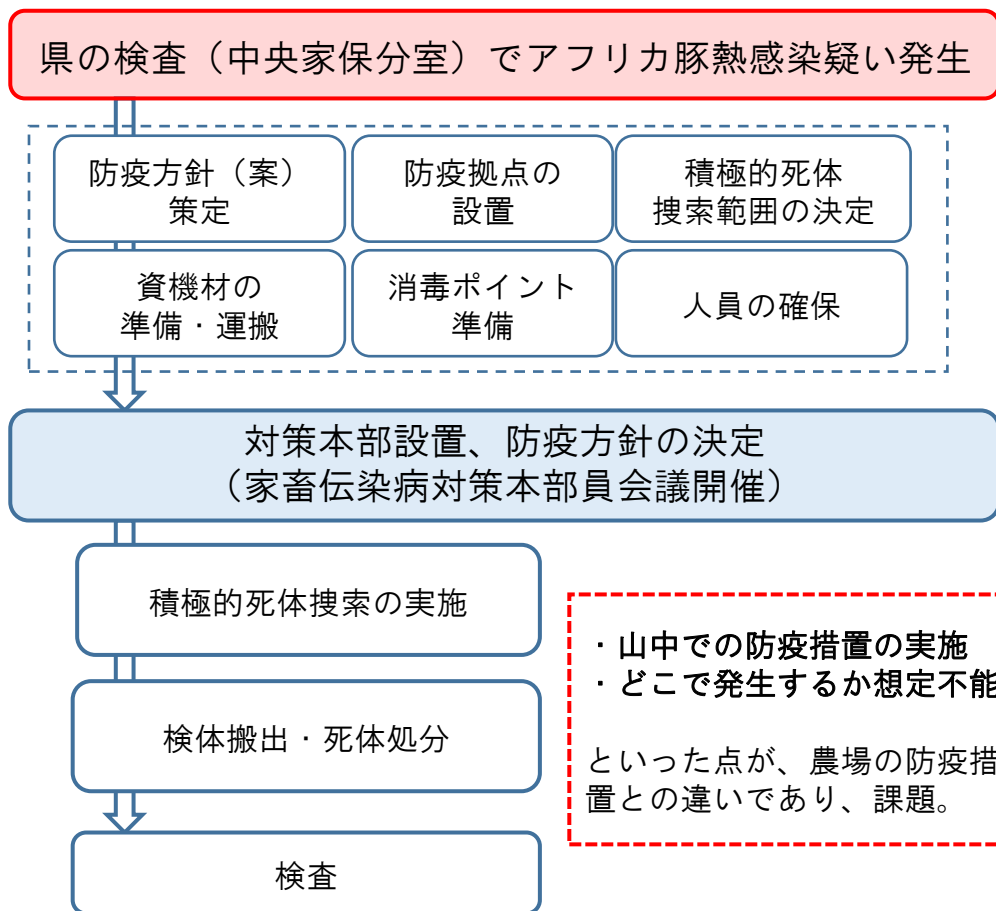
年度	R2	R3	R4(12月末時点)
調査捕獲	1,891件	1,013件	1,022件
有害捕獲	85件	661件	990件
狩 猟	245件	305件	312件
合 計	2,221件	1,979件	2,324件

4 令和5年度の「野生いのしし対策」（野生いのししの捕獲強化）

⑤ 野生いのししにおけるアフリカ豚熱防疫体制の構築

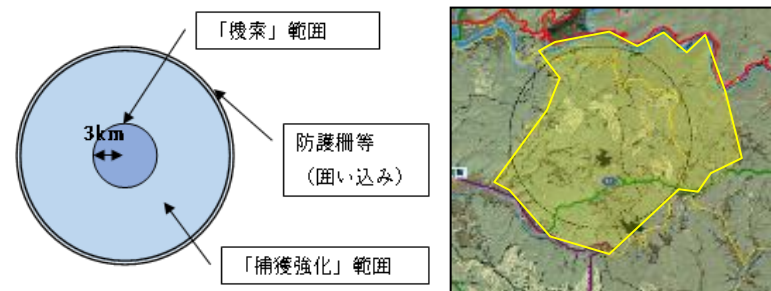
- 野生いのししのアフリカ豚熱確認を想定し、国において作成中の基本方針（案）をもとに、本県の防疫体制を構築。
- 搜索範囲の決定や対策拠点の設置、本部員会議の開催などについて、机上演習を実施。
- 関係団体と連携し、現場での対応を確認。

＜野生いのししにおけるアフリカ豚熱防疫対応のフロー＞



机上演習にて役割分担や手順を確認

農場の防疫措置計画でリストアップしてある消毒ポイント、集合場所、資機材などを活用することを想定
搜索範囲決定手順等を確認



＜対策の種類と範囲のイメージ＞

県猟友会等と連携し現場での対応を確認

1日どれくらいの範囲が可能か、搬出をどのように行うかなどを現場で確認。

5 令和5年度の「野生いのしし対策」（経口ワクチン散布）

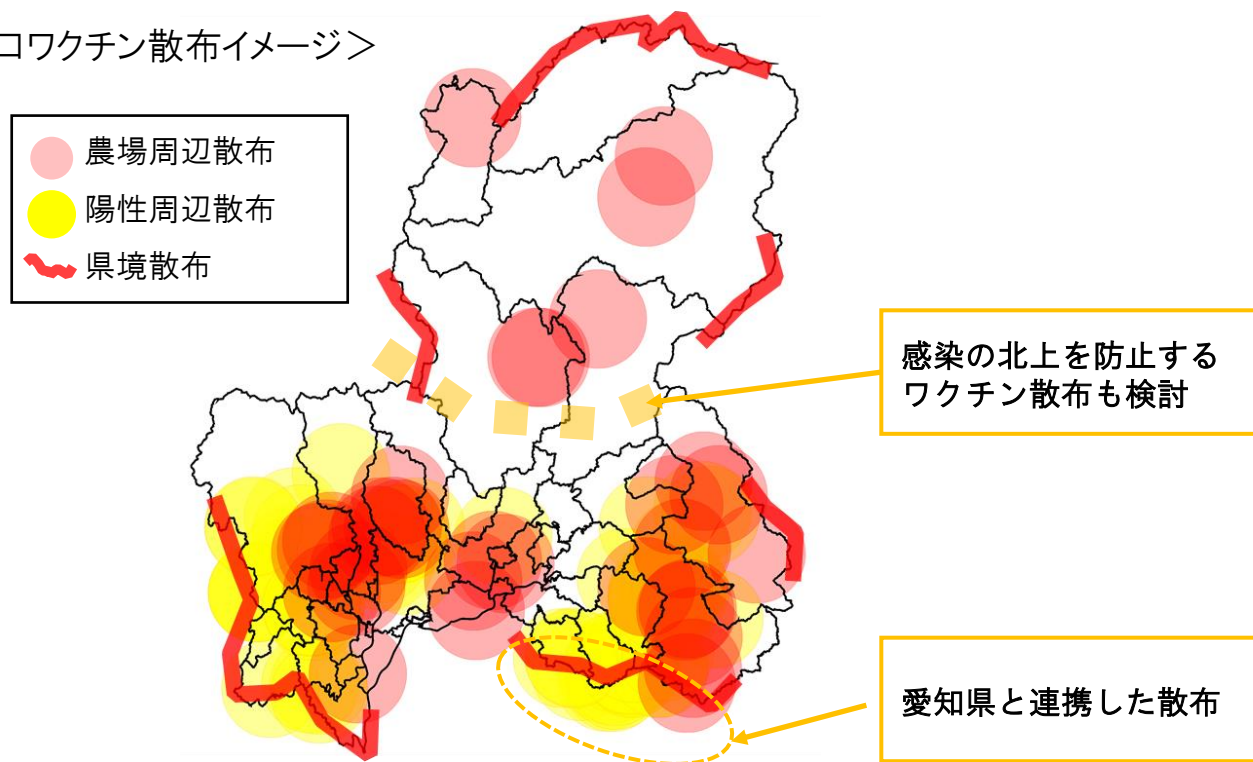
① 経口ワクチン散布方針

農場周辺や県境付近を中心（特に県南部地域）に、重点散布を実施するとともに、散布地点の見直しや散布手法の検討といった「摂食率の向上にむけた取組み」を継続。

② 経口ワクチン散布方法

- 年間2期4回の散布を実施。
- 散布地点の増加などにより、引き続き、農場周辺・県境・感染いのしし確認地点周辺に重点散布。特に、東濃地域南部の県境付近では、愛知県と連携したワクチン散布を検討。

<令和5年度の経口ワクチン散布イメージ>



5 令和5年度の「野生いのしし対策」（経口ワクチン散布）

③ 散布地点の変更

- ・ 摂食状況調査等の結果を踏まえ散布地点の見直しを実施。
 - 今年度の摂食状況調査と野生いのししの痕跡記録をもとに、散布地点の変更を実施。
 - 変更後の散布地点も含め、ワクチン殻の摂食痕による摂食状況調査を継続。

< 県北部地域の摂食地点割合 >

散布時期			調査 地点数	摂食痕あり 地点数	割合
前期	1回目	(5/1~15)	799	195	24.4%
	2回目	(6/22~26)	801	390	48.7%
後期	1回目	(9/15~19)	769	268	34.9%
	2回目	(10/19~23)	768	245	31.9%

< 県南部地域の摂食地点割合 >

散布時期			調査 地点数	摂食痕あり 地点数	割合
前期	1回目	(5/11~15)	850	220	25.9%
	2回目	(6/22~26)	889	337	37.9%
後期	1回目	(10/19~23)	926	486	52.5%
	2回目	(1/18~22)	945	340	36.0%

・ 年間をとおして（令和4年度：2期4回）、一度も摂食及び痕跡が確認されていないのは、

1, 869地点中、217地点（11.6%）。

（北部：833地点中121地点（14.5%）、南部：1, 236地点中96地点（7.8%））

5 令和5年度の「野生いのしし対策」（経口ワクチン散布）

④ 摂食率向上に向けた取組み

- 中型哺乳類（タヌキ、アライグマなど）による盗食防止のための散布手法の検討を継続。
 - 今年度の実証結果から、改良した散布器具（ベイトステーション）や新たな散布方法を試行。
 - 他地域への横展開など、散布現場への適応可能な方法にブラッシュアップ。

【令和4年度 摂食率向上実証試験の結果】

目的 「① 中型哺乳類及び鳥類によるワクチン摂食を妨げるベイトステーションの検証」
 「② 野生いのししを効果的に誘引する誘引餌の検証」

概要 実施期間：令和4年8月22日～9月16日（3期間に区切って検証）
 実施場所：瑞浪市内の30地点

① 「カサ」「ザル」を用いた吊り下げ式ベイトステーション及び設置高の検証

- ・ カサ方式 → いのししによる摂食なし
- ・ ザル方式 → 設置高80cm以上で他動物の摂食が減少。
 ただし、支柱とした木を登って、アライグマが摂食。
 2週間ほどかけて器具に慣れさせることがポイント。

高さ	地点数	成獣	幼獣	アライグマ	タヌキ	アナグマ	ネコ
60	5	◎	×	◎	×	◎	—
70	8	◎	◎	◎	△	◎	◎
80	7	×	×	◎	△	×	×
90	5	×	×	◎	×	×	—
93	1	◎	×	◎	△	—	—
100	1	×	—	◎	×	×	—

◎ザルからの摂食 ×撮影されたが摂食なし — 撮影なし △地面に落ちていたワクチンを摂食

- #### ② コーンとヌカ及びそれらへの添加剤（醤油・片栗粉）で誘引
- 統計的に有意な差はなし

【継続実証項目(R5予定)】

【改良型ベイトステーション】



支柱がない
吊り下げ

【新たな埋設・散布手法】



ブロックの利用



ザル埋設による
横からの穴掘り防止



大型の置石による
盗食防止

6 ジビエ利用再開後の現状と課題

① ジビエ事業者再開申出状況

- 「【岐阜県版】野生いのししジビエ利用マニュアル（※<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/197024.html>を参照）」を令和4年8月1日に発出。
- 現在、8事業者が再開（R5年1月末現在）。13頭を検査。すべて陰性。

② 課題

- 37施設（※）中、8施設しか申請・承認が進んでいない（約21%）のは、豚熱感染が継続的に確認されていることや、豚熱の防疫対策に係る資材費等の負担が大きいことが主な要因。
※ジビエ処理施設のうち、イノシシを取り扱うこととしている施設。令和3年度岐阜県健康福祉部生活衛生課・岐阜市保健所調べ）
- 陽性個体の確認の増加に伴い、「豚熱陽性高率エリア（捕獲個体の搬入を自粛するエリア）」の設置頻度及び範囲が増加。一部施設では、営業活動を一時休止せざるを得ない状況。
→ 野生いのししの陽性確認状況などを踏まえ、将来的には「豚熱陽性高率エリア」の見直しも検討。

7 「いのししまップぎふ」の改善

- 野生いのししの捕獲情報の報告や豚熱陽性高率エリアの確認などのために活用されている捕獲情報記録アプリ「いのししまップ」について、ユーザーアンケートを実施。
- 視認性を上げるためのアイコンの大きさや色などの改善、情報項目の追加など、対応可能な部分について、アプリの改善を実施中。
→ 令和5年4月リリース予定。

